

大型厚紙を活用した絵の制作——横浜海岸教会の例

日曜学校教師（幼少科） ふるた かちこ 古田伽知子

横浜海岸教会の日曜学校は、朝8時45分からの教師祈禱会ののち、礼拝開始を告げる鐘が27回（新約聖書の数）打たれ、9時に礼拝が始まります。30分の礼拝の後、9時30分から10時までの30分を分級としています。分級は幼少、小学生低学年、小学生中学年、小学生高学年、中学生、高校生、成人（主に付き添いの保護者）の8クラスに分かれています。イースター、ペンテコステ、花の日、夏期学校、収穫感謝、クリスマス等の行事に備え分級の時間を使い全員で準備をしますが、その他の日は各分級教師が工夫して分級を行っています。

今回紹介いたしますのは、幼少科（サムエル組：3～6歳の幼児、平均出席4名）の取り組みです。幼児が幼児なりに聖書の出来事を理解し、その情景の制作を通して心に深く印象づけること（具体例A）、また教会・日曜学校が身近なものとして感じられるように、年間行事・自然環境（具体例B）をテーマにしたものです。

1. コンセプト

- ① 神様への信頼、隣人との結びつきを考え、大型厚紙を使った作品づくりに子どもたちが参加して1枚の絵を完成させることにより、心の中に深く聖書の出来事を印象づける。
- ② 限られた分級の時間のなかで、急がず焦らず楽しみながら1年間に1つの作品を完成させる。
- ③ 字をまだ書くことができない、鋏・定規も使えない幼児がいるなかで、単純な作業を繰り返しながら、互いに協力し助け合うことを学ぶ。
- ④ 既成品（簡便な「貼るだけ」あるいは「見た目の良い」「気を引くもの」）はなるべく使用せず、自分たちの力で地道な努力によって完成する喜びを分かち合う。

2. 教材

スノーマット（大型厚紙）78cm×110cm／絵具・クレヨン・クレパス・カラーマーカー・のり・セロテープ・はさみ／画用紙・色紙・折り紙・包装紙・新聞切り抜き・写真・キャブロン（通称プチプチ）等

3. 進め方

【具体例A】 創世記第6章～8章「ノアの箱舟」

- ① 聖書箇所を何回か読み、幼児なりに内容をイメージさせる。
- ② スノーマットに下絵（この場合は画面いっぱい船の輪郭、海・波）を描く。海の部分はキャブロンを張り付け、海の泡の雰囲気を出す。
- ③ 折り紙で、クジャク・ハト・キリン・ネコ・ゾウ・パンダ・カニ等を折り、船に張り付ける。
- ④ 画用紙や色紙に子どもたちが描ける動物や食べ物（子どもたちの発想）を描き、切り抜いて張り付けたり、直接船に描いたりする。

新聞の切り抜きも張り付ける。（例えば当時の人気者レスサーパンダの風太くんが乗船）

- ⑤ 絵を制作している子ども本人の絵も描き箱舟に乗せている。



ノアのはこぶね

[特集] 教材の制作例

【具体例B】 日曜学校行事と教会の周りの自然とを結び付けて神様の御業を思う

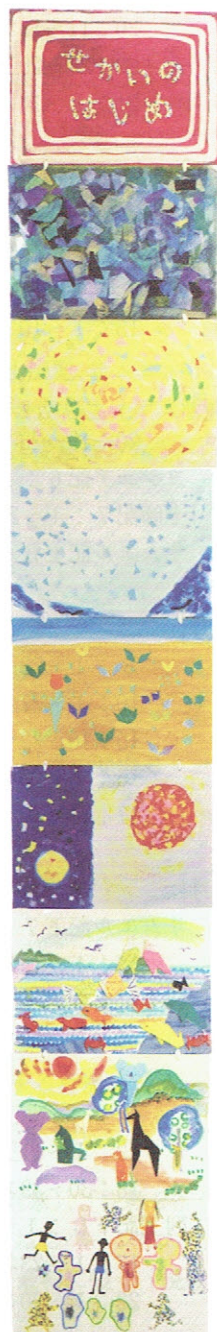
- ①スノーマット中央に教師が教会の建物を描く。
- ②季節ごとに行事と自然を子どもたちが組み入れていく。



「かみさまのみわざ」
～横浜海岸教会の一年

- 4月：イースター
はと（クッキー型利用）
- 5月：チューリップ（折り紙）
いちご（切り張り）
- 6月：花の日の花束とカード
（描き張り付け）
- 7月：あじさい（包装紙切抜き）
蝶（描き張り付け）
- 8／9月：夏期学校・蝉（折り紙）
蝉の抜け殻（描き張り付け）
- 10／11月：収穫感謝の果物
木の実・きのこ（折り紙）
- 12月：クリスマス・ツリー
（折り紙）・星（シール）
- 1／2月：制作に参加した子どもの
写真（張り付け）
- 3月：教会の一年間を振り返り話し合う。

かみしばい 「天地創造」



4. 子どもたちの反応

白紙の状態から1つ1つ加えて出来上がった作品は、子どもの背丈ほどになります。完成に近づく子どもたちの熱意も増し、画面の中に自分たちも登場することによって喜びと達成感を味わうのでしょうか。「先生、今度は何をするの?」と聞いてくるのは感謝です。一年を経て、小学生になる子もいます。時にはやって来て折り紙などを手伝い、教会の兄弟姉妹の関係が自然のうちに出来ているのかと思います。



バベルの塔



最近の制作風景：
「からしだねのたとえ」(立体)

横浜海岸教会公式HPにて掲載作品のカラー画像を公開中です。
御覧頂けましたら幸甚に存じます⇒ <http://www.kaiganchurch.or.jp/>